2022. 1～3 No.59

かなしん景況レポート

横浜ベイブリッジ

横浜営業部
山崎職員　撮影

目　次

景気動向	地域経済(全業種総合)	2
	業種別経済	6
	特別調査	18
お客様景況インタビュー	株式会社　中込製作所　「～限りない成長を目指して～」	19
トピックス	「神奈川県の景況感について」	3
	「経済指標について：消費者物価指数」	9

調 査 概 要

調査時期	令和4年2月16日から令和4年3月4日まで
調査地域	横須賀市・逗子市・三浦市・三浦郡葉山町・鎌倉市・横浜市・川崎市・藤沢市・茅ヶ崎市 大和市・綾瀬市・高座郡寒川町
調査方法	調査員による面接聞き取り方式又は対象企業先による直接記入方式
分析方法	各質問項目で、「増加（上昇）」したとする企業が全体に占める構成比と、「減少（下降）」したとする企業の構成比との差（D.I.）を中心にして分析を行いました。
回答率	調査先数　当金庫取引先　500先　　回答先数　492先　　回答率　98.4%

全業種総合天気図

	2021年4～6月	2021年7～9月	2021年10～12月	2022年1～3月	2022年4～6月 来期予想
全業種総合					
製造業					
卸売業					
小売業					
サービス業					
建設業					
不動産業					

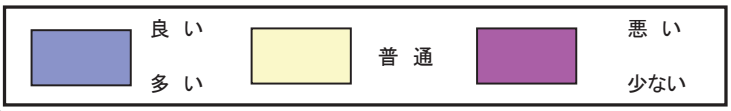
低調 ← 天気図 → 好調

この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。

かながわ信用金庫
かなしん

全業種総合　～業況、売上額、収益とも前回調査時の今期見通しを大幅に下回った～

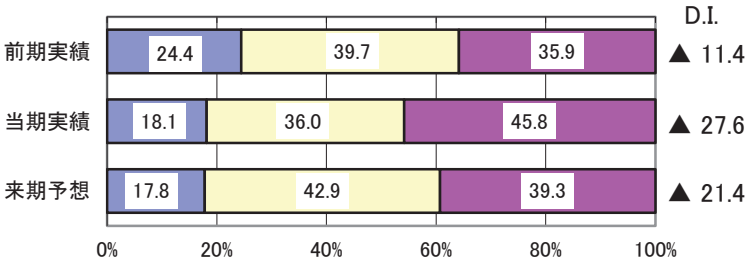
当期実績（2022年 1～ 3月期実績）
来期予想（2022年 4～ 6月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は▲27.6と、対前期比16.2ポイントの2桁低下となり、前回調査時における今期見通し（▲5.4）を22.2ポイントと大きく下回りました。業種別に見ると、不動産業は横ばいで唯一プラス水準を維持し、他の業種は低下となりました。特に卸売業が30.6ポイントの大幅な低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲21.4と、6.2ポイントの改善をする見込みです。

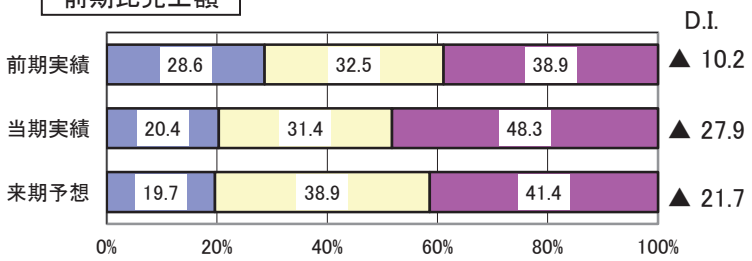
業　況



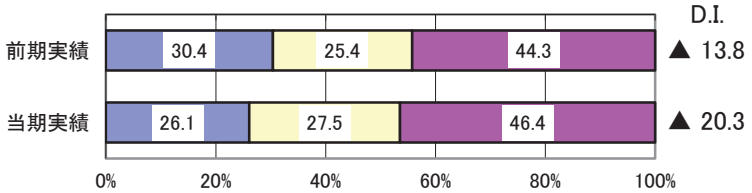
2. 売 上 額

当期の売上額判断D.I.は▲27.9と、対前期比比17.7ポイントの2桁低下となりました。業種別に見ると、不動産業のみ改善となり、他の業種は低下となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲20.3ポイントと、10～12月期から6.5ポイントの低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲21.7と、6.2ポイントの改善をする見込みです。

前期比売上額



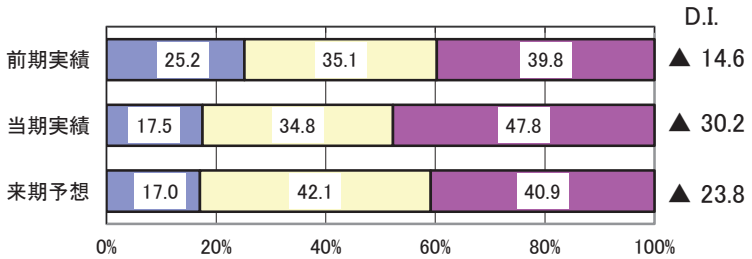
前年同期比売上額



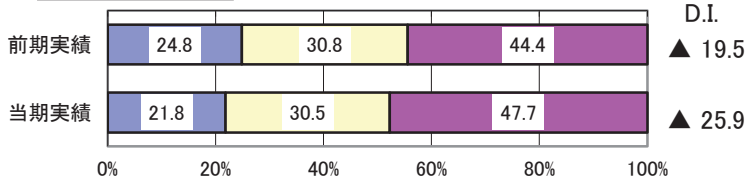
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲30.2と、対前期比15.6ポイントの2桁低下となりました。業種別に見ると、不動産業は横ばいとなりましたが、他の業種は低下となりました。特に卸売業、小売業、サービス業が大幅な低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲25.9と、10～12月期から6.4ポイントの低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲23.8と、6.4ポイントの改善をする見込みです。

前期比収益

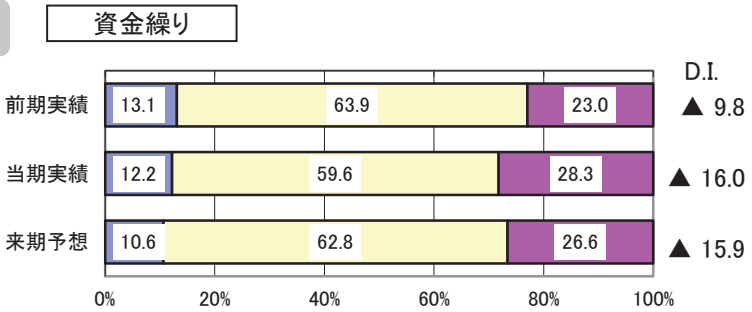


前年同期比収益



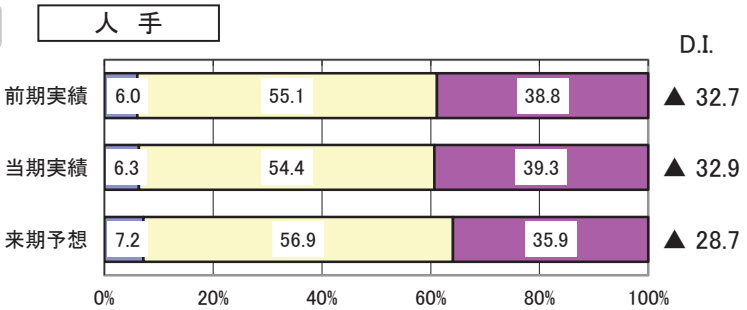
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲16.0と、対前期比6.2ポイントの低下となりました。業種別に見ると、卸売業、建設業で改善となり、他の業種は低下となりました。特にサービス業は22.5ポイントの大幅な低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲15.9と、ほぼ横ばいとなる見込みです。



5. 雇　用

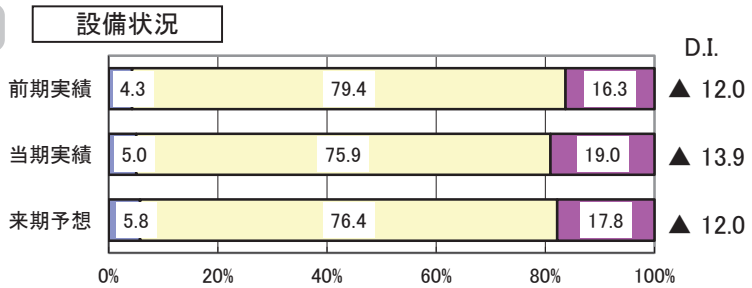
当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲32.9と、対前期比0.2ポイントの小幅低下となりました。業種別に見ると、D.I.はサービス業のみ改善となりました。数値に着目すると、特に建設業が▲47.3と、厳しい水準となっています。全業種の来期予想D.I.は▲28.7と、人手不足感は多少緩和しますが、厳しい水準が続く見込みです。



※雇用判断D.I.（過剰－不足） マイナスは人手不足

6. 設備状況

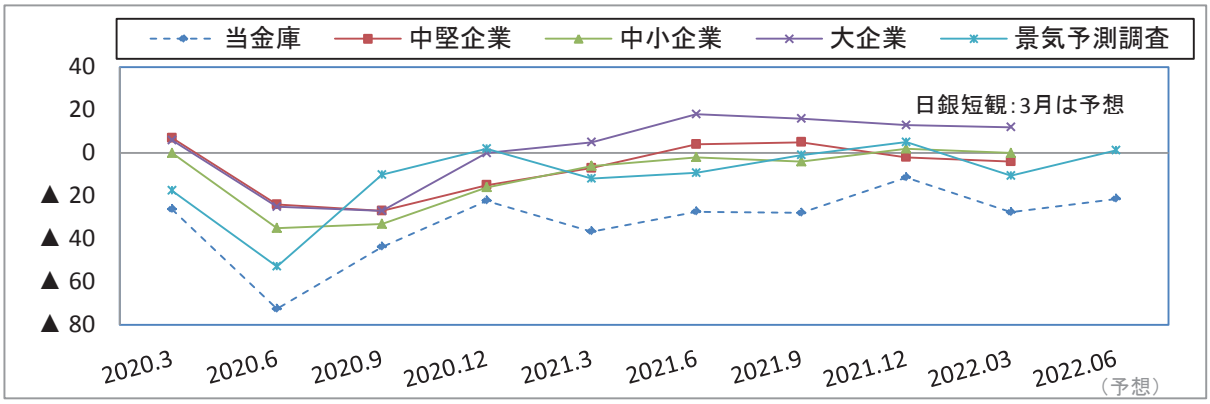
当期の設備状況判断D.I.は▲13.9と、対前期比1.9ポイントの低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲12.0と、不足感は小幅に緩和する見込みです。



神奈川県の景況感について

神奈川県金融経済概況（2022年3月分）では、「引き続き新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響を受けながらも、基調としては持ち直している。ただし、地政学的リスクの高まりに伴う影響には、注視が必要である」と、前回判断が据え置かれました。項目別も前月判断が据え置かれています。また、神奈川県の経済情勢報告（令和4年1月判断）の総括判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きあるなか、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している」と前回判断より引き上げられました。項目別では、＜個人消費＞、＜企業の景況感＞、＜住宅建設＞が引き上げられ、＜公共事業＞が引き下げられました。さらに全国単位では、令和4年2月の月例経済報告の基調判断を「景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる」として判断が引き下げられました。このように神奈川県、全国共に新型コロナ感染症の影響から持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いています。

日銀短観（企業規模別）、法人企業景気予測調査(横浜財務事務所)、当金庫業況DIの推移

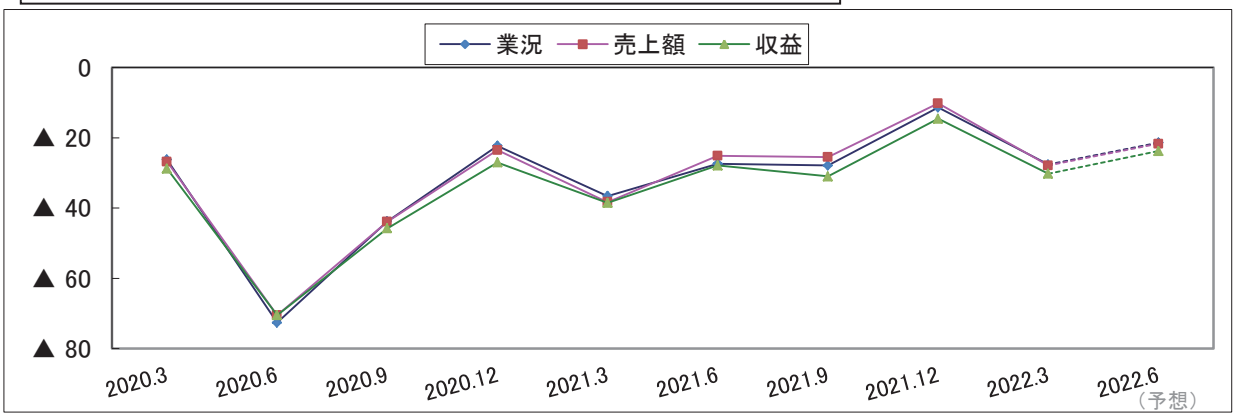


「日銀短観（神奈川県分）」（2022年4月分）は未発表のため、本レポート作成時点では上記短観の調査結果は確認できていませんが、発表済公的調査の景況感において、一部に弱さがみられるものの緩やかに持ち直しつつあると示されていることから、小幅改善・横ばいを示した前回調査予測値同程度となることが見込まれます。しかしながら、新型コロナウイルス感染症による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による県内経済の下振れリスクに注意が必要です。

関東財務局横浜財務事務所発表の「法人企業景気予測調査」では、2021年10～12月期は5.1でプラス水準となりましたが、2022年1～3月期は▲10.6と再度マイナス水準となりました。大企業・中堅企業は、2022年4～6月期に上昇へ転じる見通しですが、中小企業の上昇は2022年7～9月期になる見通しです。全体規模では2022年4～6月期は、1.2とプラス水準に転じる予想となっています。

「当金庫景気動向調査」では、前回調査時業況判断指数ＤＩ、▲11.4から16.2ポイント低下の▲27.6となりました。振れ幅に違いはあるものの法人企業景気予測調査と近い推移を示しており、2022年4～6月期予測では6.2ポイント改善する見込みです。

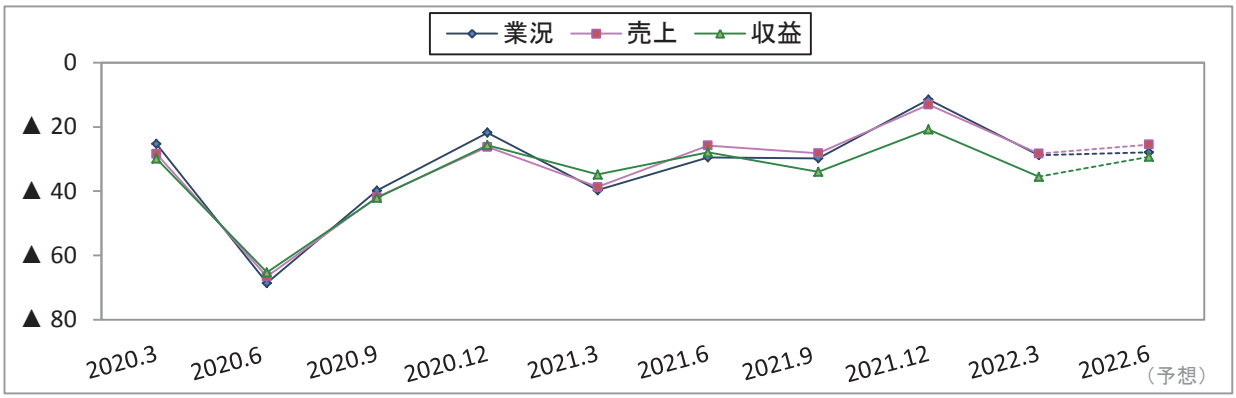
業況・売上額・収益D.I.の推移（全業種総合：当金庫）



2022年1～3月期の業況判断D.I.は▲27.6と、対前期比16.2ポイントの2桁低下となり、前回調査時における今期見通し（▲5.4）を22.2ポイントと大きく下回りました。売上額判断D.I.は▲27.9と、対前期比17.7ポイントの2桁低下、収益判断D.I.は▲30.2と、対前期比15.6ポイントの2桁低下となり、業況同様、今期見通しを下回りました。「海運コンテナの買い負けにより、購入物品が納期どおりに納品されていない」（製造業）、「新車の納期が遅れており、車両の確保については台数が不足している。修理する部品も不足しており、修理面でも問題が生じている」（小売業）、「高圧ケーブルを注文しても、入荷時期、コストについての回答がない。材料の在庫がある先をリサーチして何とか入手している状態です」（建設業）、「仕入原価の大幅上昇と更なる上昇予測に伴う販売価格転嫁の限界と販売不振が不安である」（不動産業）等、景況は回復しつつあるが、まだまだ先行き不透明であり、不安視しているコメントが多く寄せられました。

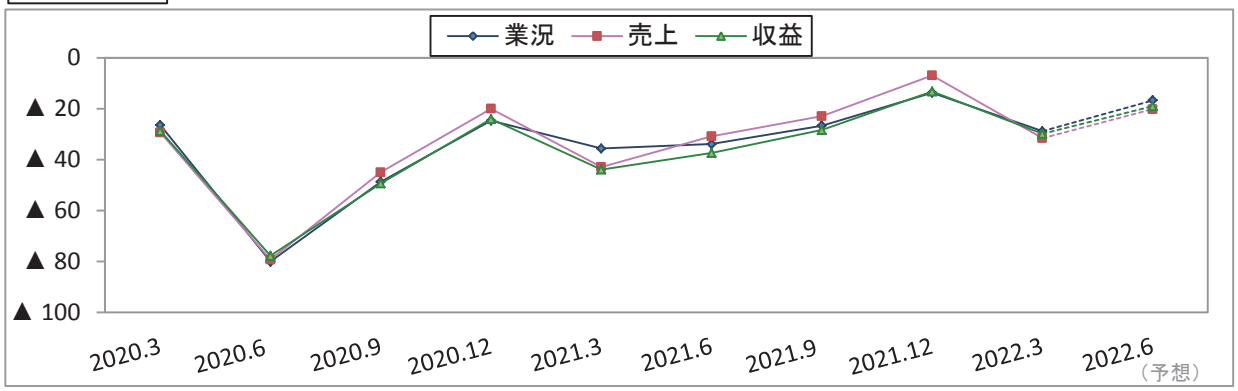
地区別の業況・売上・収益の推移（当金庫）

横須賀地区



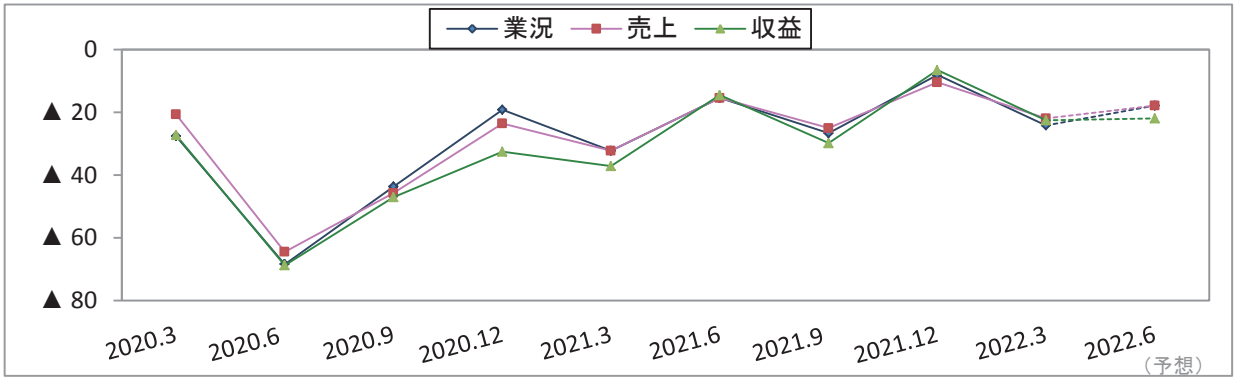
横須賀地区の2022年1～3月期の業況判断D.I.は▲28.8と、対前期比17.3ポイントの2桁低下となり、売上、収益についても2桁低下となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲27.9と0.9ポイント小幅改善する見込みで、売上、収益についても改善を見込んでいます。

横浜地区



横浜地区の2022年1～3月期の業況判断D.I.は▲28.9と、対前期比15.2ポイントの2桁低下となり、売上、収益についても2桁低下となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲16.7と、12.2ポイント改善し、売上・収益共に2桁改善を見込んでいます。

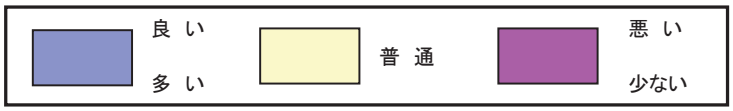
藤沢地区



藤沢地区の2022年1～3月期の業況判断D.I.は▲24.1と、対前期比▲16.1ポイントの2桁低下となり、売上、収益についても2桁低下となりました。来期予想については、業況判断D.I.は▲17.8と、6.3ポイント改善する見込みです。売上、収益についても改善を見込んでいます。

製造業 ～来期は業況、売上額、収益とも2桁改善する見込み～

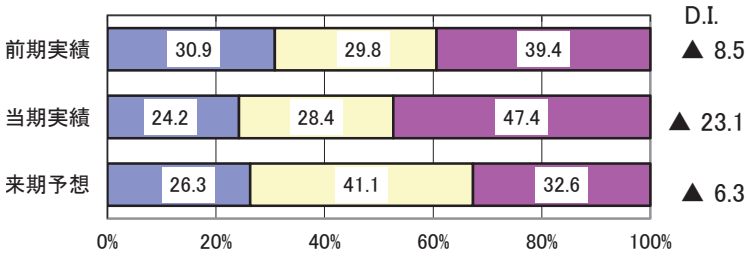
当期実績（2022年 1～ 3月期実績）
来期予想（2022年 4～ 6月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は▲23.1と、対前期比14.6ポイントの2桁低下となり、前回調査時における今期見通し（▲3.1）を20.0ポイントと大きく下回りました。来期予想については、D.I.は▲6.3と、16.8ポイントの2桁改善をし、改善幅が最も大きな業種となる見込みです。

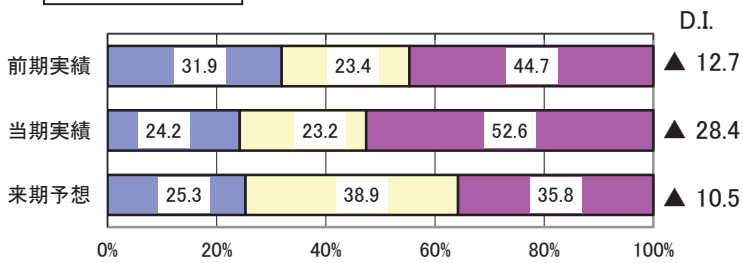
業　況



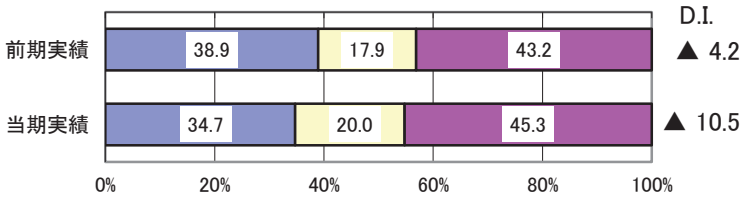
2. 売上額

当期の売上額判断D.I.は▲28.4と、対前期比15.7ポイントの2桁低下となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲10.5と、10～12月期から6.3ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.▲10.5と、17.9ポイントの2桁改善をし、業況同様、改善幅が最も大きな業種となる見込みです。

前期比売上額



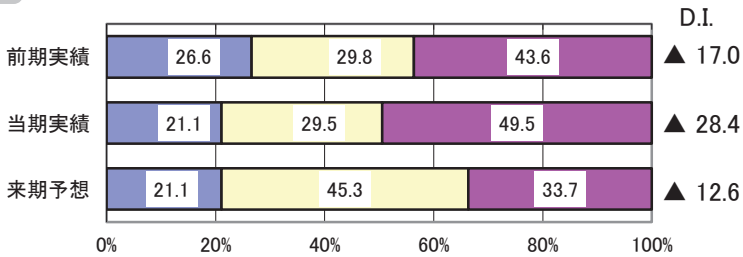
前年同期比売上額



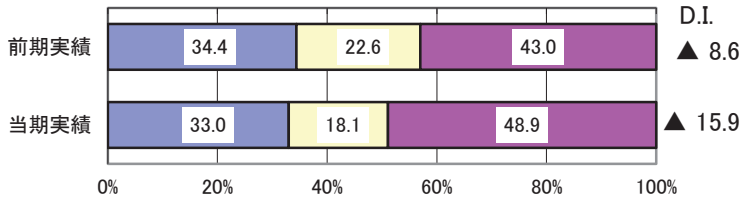
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲28.4と、対前期比11.4ポイントの2桁低下なりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲15.9と、10～12月期から7.3ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲12.6と、15.8ポイントの2桁改善をし、業況、売上額同様、改善幅が最も大きな業種となる見込みです。

前期比収益

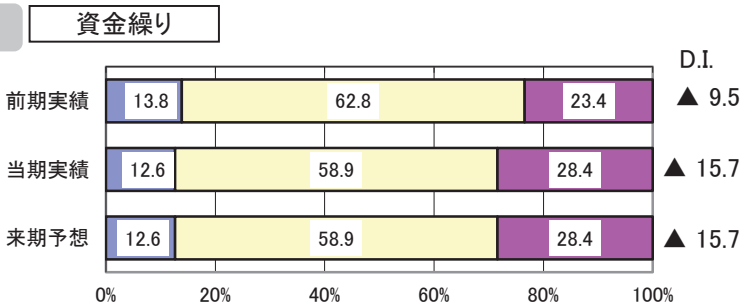


前年同期比収益



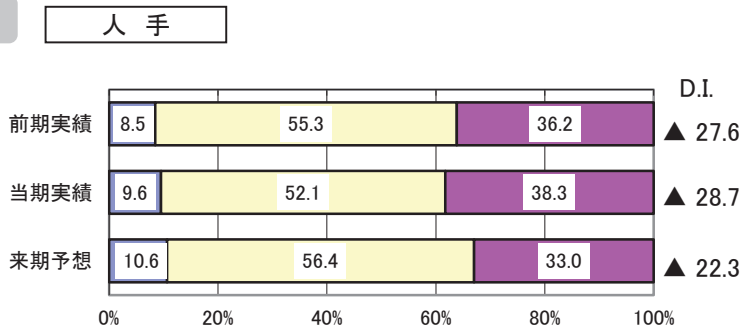
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲15.7と、対前期比6.2ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲15.7と、横ばいの見込みです。



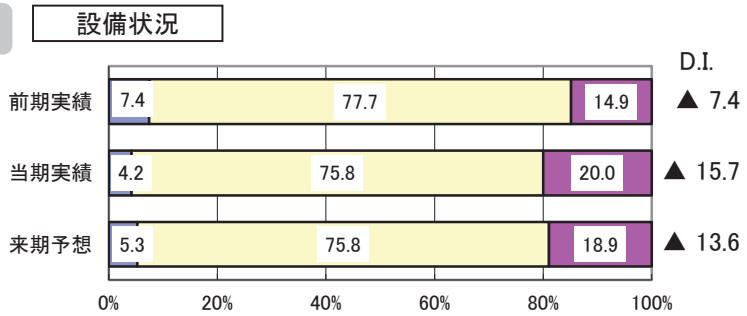
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰−不足）は▲28.7と、対前期比1.1ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲22.3と、人手不足感は緩和する見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲15.7と、対前期比8.3ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲13.6と、不足感は小幅に緩和する見込みです。

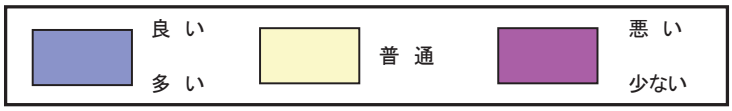


調 査 先 の コ メ ン ト

○海運コンテナの買い負けにより、購入物品が納期通りに納品されていない。
○材料費の高騰による値上申請は受け入れられたが、実施する段階では申請通りにはいかないと思われる。また、実施時期についても不確定となっている。
○自動車関連では半導体等の部品調達難に伴う減産が続いている。
○コロナ及び世界情勢から先行き不透明である。
○事業再構築補助金の活用により、新たな設備を購入することができた。
○当社で供給している建機部品、油圧シリンダは国内向けがほとんどで、国内需要の回復が新型コロナの影響でまだ停滞している。加えて、車に積載の半導体部品の供給不足もあり生産ラインが調整を受けている。
○ロシア、ウクライナ紛争が日本経済に及ぼす影響を危惧していて、特に燃料代の値上がりがどうなるか注視している。また、長期化によって日本経済が更なる負のスパイラルに陥らないことを望んでいる。せっかく上がってきた株価も、この世界紛争の一件で急落しており、今後、中国も不穏な動きがないことを願いつつ、世界経済がロシア発の恐慌に向かわないことを願っている。
○半導体不足問題の先が見えない。
○今後、インボイス制度が始まると個人事業主との付き合い方がよく分からない。
○令和4年になってから今まで以上に仕事が止まった気がする。
○今年も厳しい戦いになると感じている。新たな仕入先、販売先、共に広げていく所存である。
○大手との格差がはっきりしてきた。今後の見極めが必要と思われる。

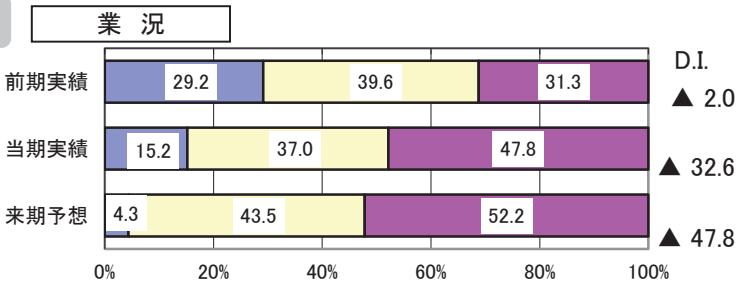
卸 売 業 ～業況は大幅低下し、全業種の中で低下幅が最も大きかった～

当期実績（2022年 1～ 3月期実績）
来期予想（2022年 4～ 6月期予想）



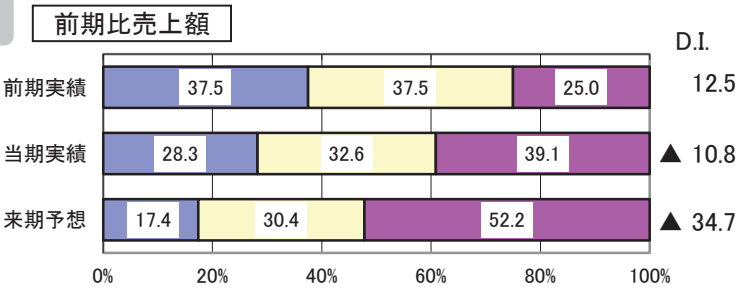
1. 業　況

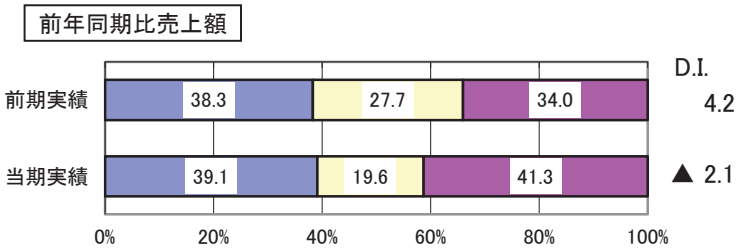
当期の業況判断D.I.は▲32.6と、対前期比30.6ポイントの大幅低下となり、低下幅が最も大きな業種となりました。前回調査時における今期見通し（▲2.1）を30.5ポイントと大きく下回りました。来期予想については、D.I.は▲47.8と、15.2ポイントさらに2桁低下をし、最も厳しい水準で、かつ低下幅が最も大きな業種となる見込みです。



2. 売 上 額

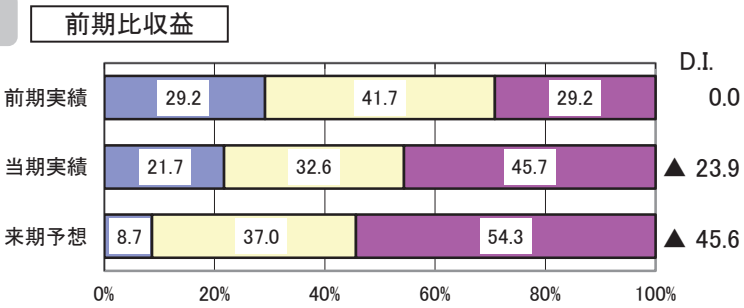
当期の売上額判断D.I.は▲10.8と、対前期比23.3ポイントの大幅低下となり、マイナス水準に転じました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲2.1と、10～12月期から6.3ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲34.7と、23.9ポイントさらに大幅低下をし、業況同様、最も低い水準で、かつ低下幅が最も大きな業種となる見込みです。

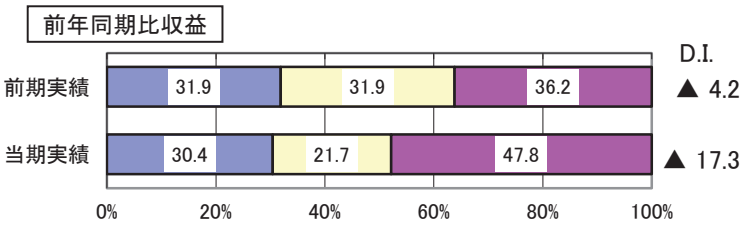




3. 収　益

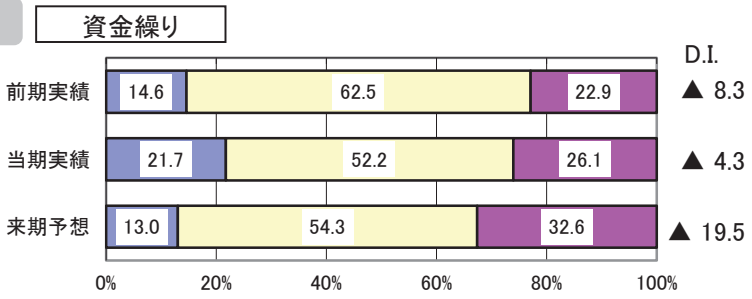
当期の収益判断D.I.は▲23.9と、対前期比23.9ポイントの大幅低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲17.3と、10～12月期から13.1ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲45.6と、21.7ポイントさらに大幅低下をし、業況、売上額同様、最も低い水準で、かつ低下幅が最も大きな業種となる見込みです。





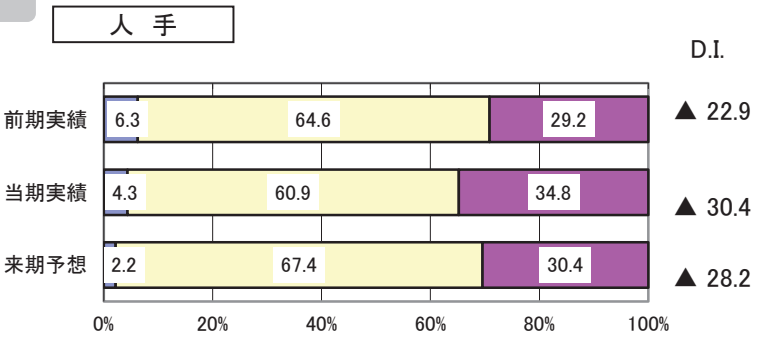
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲4.3と、対前期比4.0ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲19.5と、15.2ポイントの2桁低下をし、低下幅が最も大きな業種となる見込みです。



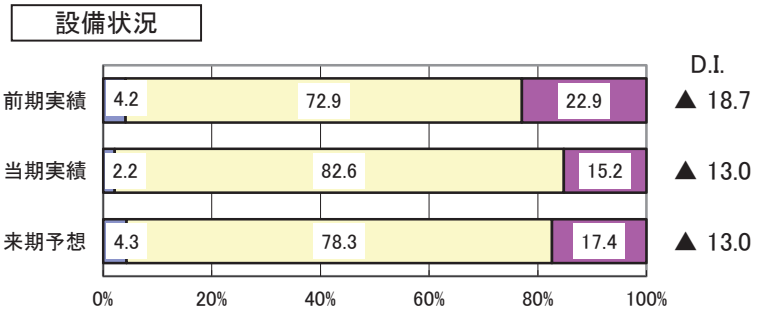
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰−不足）は▲30.4と、対前期比7.5ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲28.2と、人手不足感は小幅ながら緩和する見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲13.0と、対前期比5.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲13.0と、不足感は横ばいの見込みです。



調査先のコメント

○建設資材、産業機械の販売動向に注視している。各現場、各施設に対しては、価格よりも納期の対応が難しい。注文はあるが販売ができない状況が続いていて、3月の年度末を迎えるが、取引先の要望に応えられない。

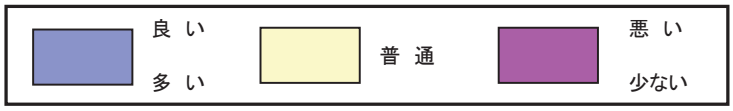
○ウッドショックによる価格高騰も一段落し、外材、国産材ともに新しい価格を探っている。

経済指標について:消費者物価指数

全国の世帯が消費する財・サービスの価格変動を示す物価指数で、総務省統計局が毎月作成しています。「家計の消費支出の中で重要度が高いこと」「価格変動の面で代表性があること」「継続調査が可能であること」などの観点から選定された585品目がされており、家計が消費生活において直面する物価の変動を幅広くカバーしています。注目されるのが「生鮮食品を除く総合」(コア)です。生鮮食品の価格は、天候の影響を大きく受けるため、消費者物価指数の動きが撹乱されてしまいます。そのため、生鮮食品を除いた「コア」が注目されます。消費者物価指数の動きは前年比で把握するのが一般的で、新聞などで報道されるのもコアの前年比の数字です。

小 売 業 ～売上額、収益は大幅低下し、全業種の中で最も厳しい水準となった～

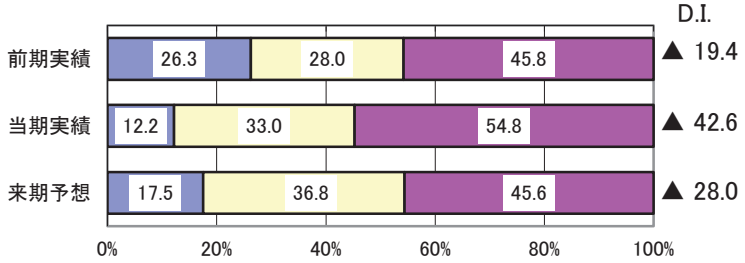
当期実績（2022年 1～ 3月期実績）
来期予想（2022年 4～ 6月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は▲42.6と、対前期比23.2ポイントの大幅低下となり、サービス業に次いで厳しい水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し（▲12.0）を30.6ポイントと大きく下回りました。来期予想については、D.I.は▲28.0と、14.6ポイントの2桁改善をする見込みです。

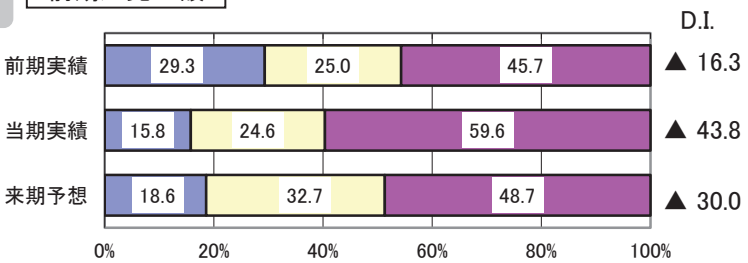
業　況



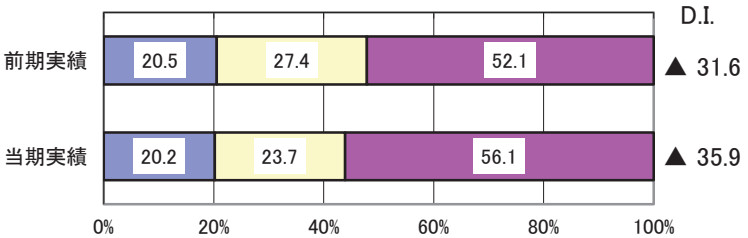
2. 売 上 額

当期の売上額判断D.I.は▲43.8と、対前期比27.5ポイントの大幅低下となり、最も厳しい水準で、かつ低下幅が最も大きな業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲35.9と、10～12月期から4.3ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲30.0と、13.8ポイントの2桁改善をする見込みです。

前期比売上額



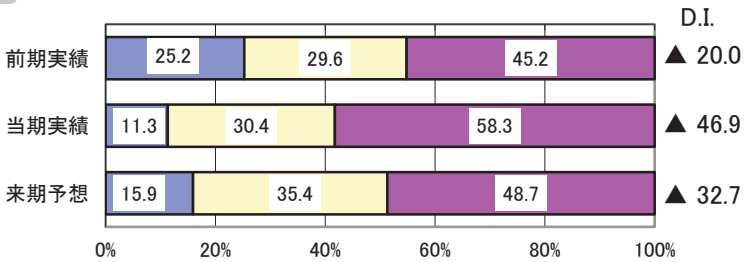
前年同期比売上額



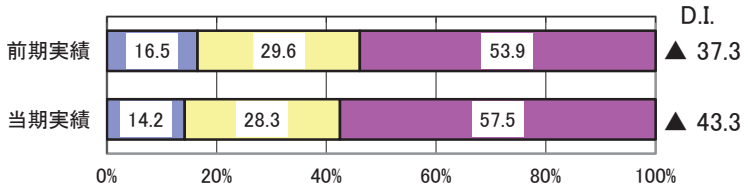
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲46.9と、対前期比26.9ポイントの大幅低下となり、売上額同様最も厳しい水準で、かつ低下幅が最も大きな業種となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲43.3と、10～12月期から6.0ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲32.7と、14.2ポイントの2桁改善をする見込みです。

前期比収益

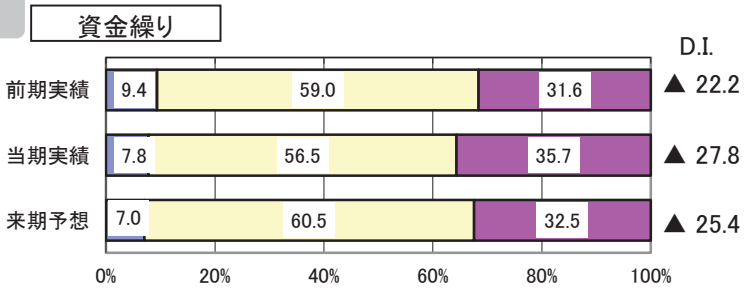


前年同期比収益



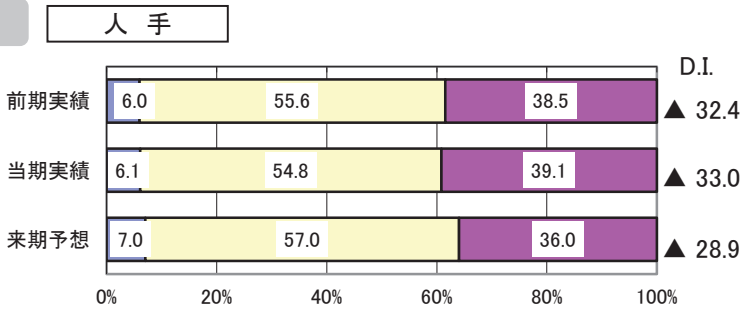
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲27.8と、対前期比5.6ポイントの低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲25.4と、小幅改善しますが、今期同様厳しい水準の業種となる見込みです。



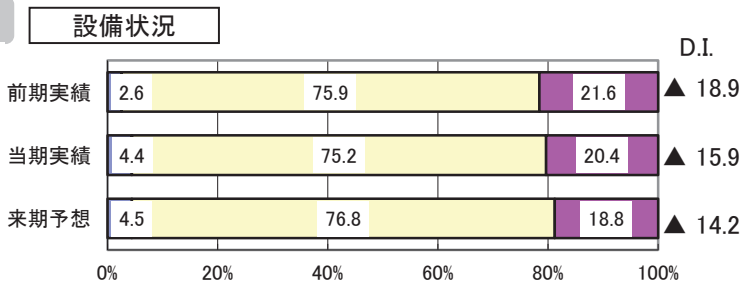
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰-不足）は▲33.0と、対前期比0.6ポイントの小幅低下となり、建設業に次いで厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲28.9と、人手不足感は多少緩和する見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲15.9と、対前期比3.0ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲14.2と、さらに小幅改善をする見込みです。

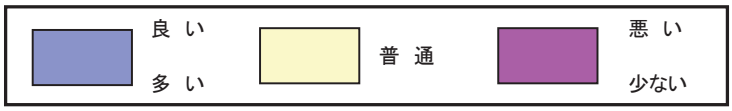


調 査 先 の コ メ ン ト

○売上は比較的順調に推移、コロナ禍が一段落した時に消費が活発化することを期待している。
○輸入材に関しては価格高騰が続いていている。また、国内産地の弱体化が進んでいる。
○新車の納期が遅れており、車両の台数が不足している。部品不足で修理面でも問題が生じている。
○市内のイベントが中止になり大きな痛手である。また、納品先が休んでいて商売にならない。
○11月及び12月は客足減少の中でも、消費者が商品券を利用し売上に寄与したことは大きい。
○コロナによるまん延防止等重点措置の延長がきつい。これから更に悪影響があると思う。
○新型コロナの第5波が落ち着き小康状態となっていたが、オミクロン株の第6波が想像以上に拡大してしまった。医療崩壊を引き起こさないように全体像をしっかり分析し対策をして、次の拡大に対応できるよう取り組むことが必要だと思う。行政は経済的補償も含めて対応してもらいたい。
○新型コロナが終息するまで様子を見るしかない。国の政策について、不公平感も含め見守っている。
○まん延防止等重点措置期間中でも、連休や休日においては多少の増益があるが、それ以外では購買意欲が低下していて売上や利益が追いつかない状況である。ここぞという時に攻勢をかけるため、体力を温存するしかないのか。死亡率が低いならば、重点措置は行わないで欲しい。
○全体的に仕入額が上昇している。
○今後の値上がりで、経費等が上昇すると思われる。商品にどう転嫁するか考慮しなくてはいけない。
○個人消費の回復は期待できないので、経費の削減に努めることになると思う。
○コロナ禍の影響でここ2年あまり開店休業の状態である。
○コロナで業者の納品が減っているので少し大変である。

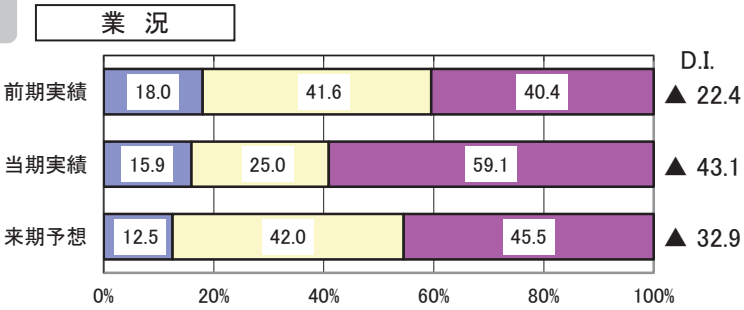
サービス業 ～業況は大幅低下し、全業種の中で最も厳しい水準となった～

当期実績（2022年 1～ 3月期実績）
来期予想（2022年 4～ 6月期予想）



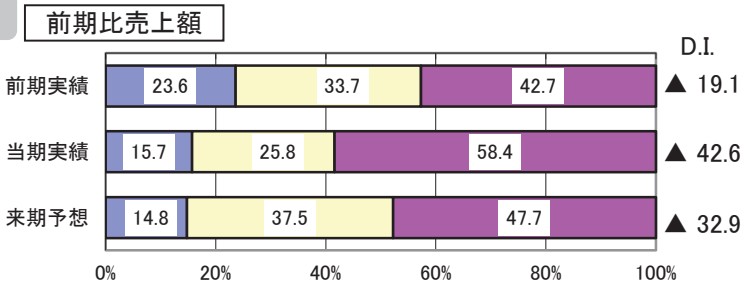
1. 業　況

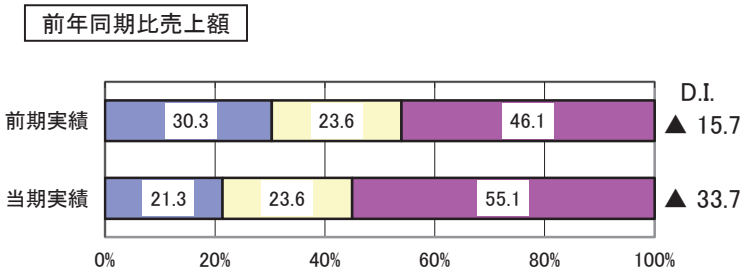
当期の業況判断D.I.は▲43.1と、対前期比20.7ポイントの大幅低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し（▲21.8）を21.3ポイントと大きく下回りました。来期予想については、D.I.は▲32.9と、10.2ポイントの2桁改善をするものの、厳しい水準が続く見込みです。



2. 売上額

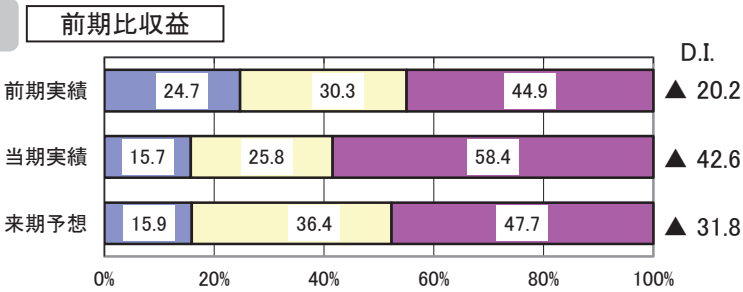
当期の売上額判断D.I.は▲42.6と、対前期比23.5ポイントの大幅低下となり、小売業に次いで厳しい水準の業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲33.7と、10～12月期から18.0ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲32.9と、9.7ポイントの改善をするものの、今期同様厳しい水準が続く見込みです。

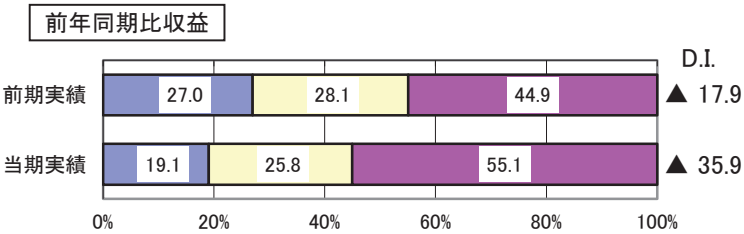




3. 収　益

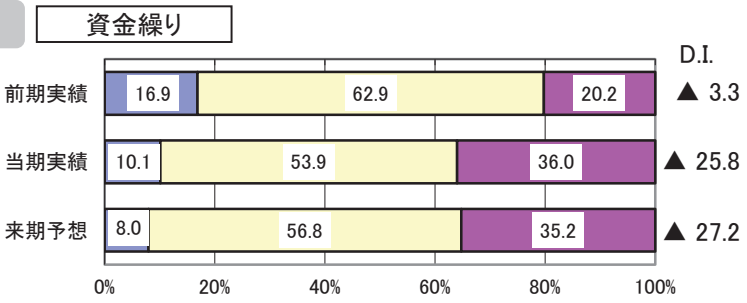
当期の収益判断D.I.は▲42.6と、対前期比22.4ポイントの低下となり、小売業に次いで厳しい水準の業種となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲35.9と、10～12月期から18.0ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲31.8と、10.8ポイントの2桁改善をするものの、厳しい水準が続く見込みです。





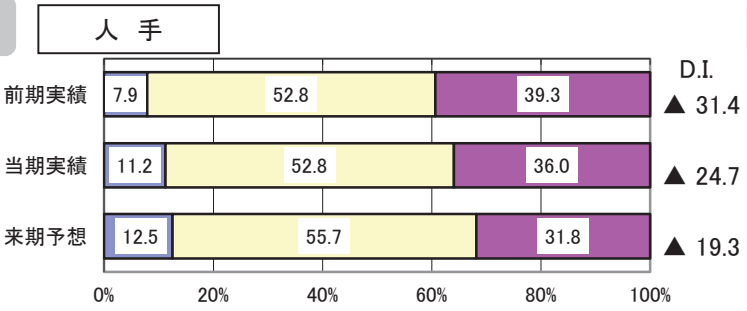
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲25.8と、対前期比22.5ポイントの大幅低下となり、最も低下幅が大きな業種となりました。来期予想については、D.I.は▲27.2と、小幅低下し、最も厳しい水準の業種となる見込みです。



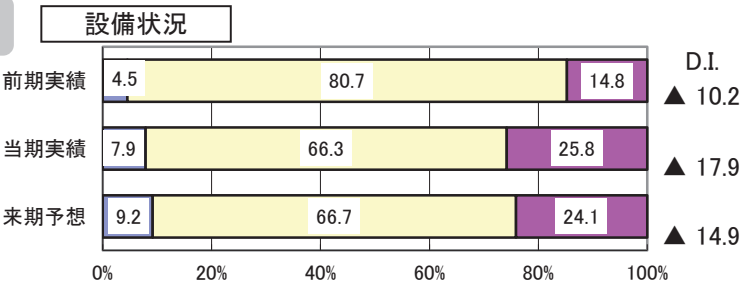
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲24.7と、対前期比6.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲19.3と、人手不足感はさらに緩和する見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲17.9と、対前期比7.7ポイントの低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲14.9と、不足感は小幅に改善をする見込みです。



調査先のコメント

○昨年11、12月においては、2019年同程度まで売上が戻ったものの、今年1月より、まん延防止等重点措置がとられて以降、大幅な売上減少となり深夜帯のタクシー需要は皆無となった。さらに燃料はじめあらゆる仕入物の価格が高騰し、今までにない経営の厳しさ、苦しみを体感している。

○販売の仕事はオミクロンの毎日のテレビ等の報道の影響で、デパート他、お客さんが来ない状況であり、各メーカーにおいては、人件費を減らす、勤務日数を減らす、時短することが多く、すべての職業が悪い状態である。（人材紹介業）

○軽油及び排ガスに含まれる窒素酸化物を除去する尿素水の値上がりで運輸業は大変困っている。

○電気代が上昇して辛い。

○福祉施設のため、食材等で今後影響があると思われる。修理等で工事業者に依頼した場合、原材料が入らないため困っていて、工事が完了した時点では、代金は見積時より高くなると思われる。

○軽油、高速料金等の値上がりに対し良い対策が見つからない。じっと我慢するしかない。

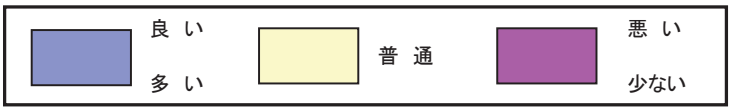
○仕入高騰分をお客様に転嫁しているが、手探り状態で、今後の対応が心配である。

○不透明な景気動向で長期計画が立てにくく、不安材料が増えている。

○消費税や税制などで国の援助的な法改正があればいいと思う。

建 設 業 ～雇用判断D.I.は小幅低下し、全業種の中で人手不足感が最も強い業種となった～

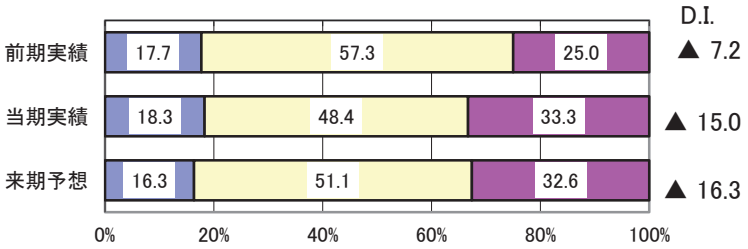
当期実績（2022年 1～ 3月期実績）
来期予想（2022年 4～ 6月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は▲15.0と、対前期比7.8ポイントの低下となり、前回調査時における今期見通し（5.2）を20.2ポイント下回りました。来期予想については、D.I.は▲16.3と、1.3ポイントさらに、小幅低下をする見込みです。

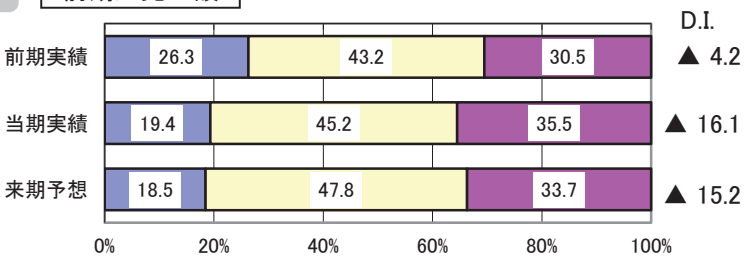
業　況



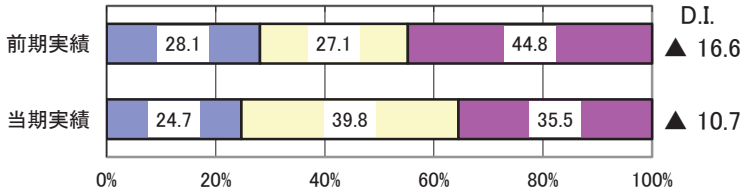
2. 売 上 額

当期の売上額判断D.I.は▲16.1と、対前期比11.9ポイントの2桁低下となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲10.7と10～12月期から5.9ポイントの改善となり、全業種の中で唯一改善した業種となりました。来期予想については、D.I.は▲15.2と、0.9ポイントの小幅改善をする見込みです。

前期比売上額



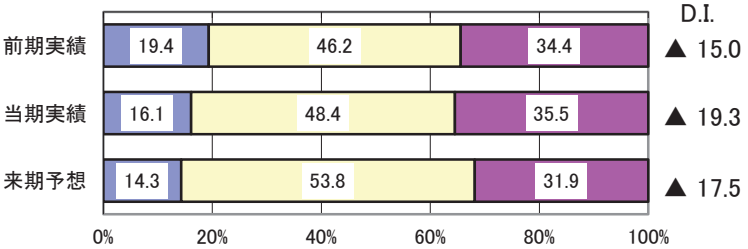
前年同期比売上額



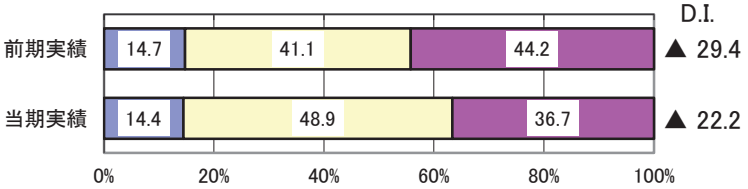
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲19.3と、対前期比4.3ポイントの低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲22.2と、10～12月期から7.2ポイントの改善となり全業種の中で、売上額同様唯一改善した業種となりました。来期予想については、D.I.は▲17.5と、1.8ポイントの小幅改善をする見込みです。

前期比収益

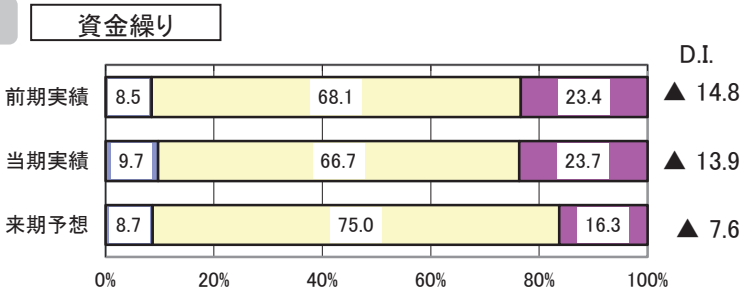


前年同期比収益



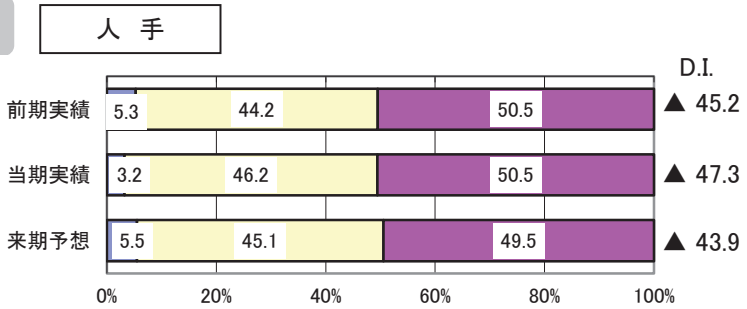
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲13.9と、対前期比0.9ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲7.6と、さらに6.3ポイントの改善をする見込みです。



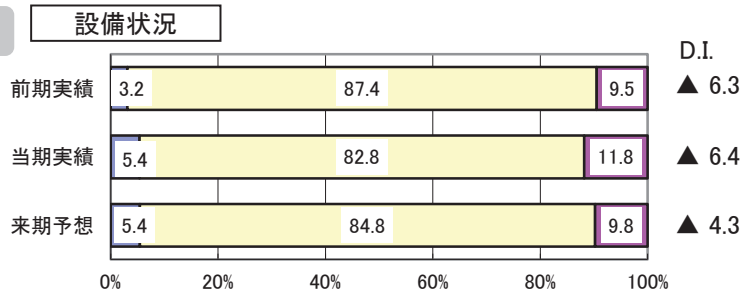
5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲47.3と、対前期比2.1ポイントの小幅低下となり、最も厳しい水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲43.9と、3.4ポイントの改善をするものの、今期同様最も厳しい水準の業種となる見込みです。



6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲6.4と、対前期比0.1ポイントの小幅低下で、ほぼ横ばいとなり、マイナス水準ながらも最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は▲4.3と、不足感は小幅に改善をする見込みです。



調 査 先 の コメント

○年間を通じて、定期工事は工期・金額等が安定しているが、新規工事に関しては工期が短く、予算ぎりぎりの物件が見られる。材料等の高騰の影響が見られ、安易に受注できない。

○米国の利上げに伴う国内への影響について、得意先には上場企業が多いので注視している。また、ウクライナ情勢等についても同様である。また、借入金利の上昇についても注視している。

○物価が上がり、より一層のダンピング合戦が懸念される。

○年度末に向け、現在忙しさのピークである。戸建住宅はピークが過ぎたと思う。

○原油価格の高騰により各種材料の製造、輸送コストが増大しており、各仕入先より10%前後の値上要請が相次いでいる。政府の価格低減策の効果が現れておらず、ウクライナ情勢もあり先行きは不透明である。

○コロナウイルスで世界が打撃を受けている中、深刻化するロシア・ウクライナ情勢がガソリン価格の高騰を招いており、経費が増すばかりで極めて痛い。第7波の兆しのあるオミクロンBA2のこともあり、世界と日本のこれからの経済動向は不安に感じる。

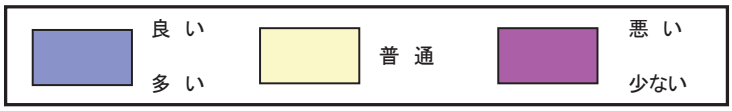
○仕事量は増加しているが、外注費が増え収益を圧迫している。

○原材料が上昇しているが、取引先等の理解を得れれず見積価格等にも信頼を損なう事態もあった。

○部品を注文しても、入荷時期、コストについての回答がない。在庫がある先をリサーチして入手している。

不動産業 ～業況は横ばいとなり、全業種の中で唯一プラス水準だった～

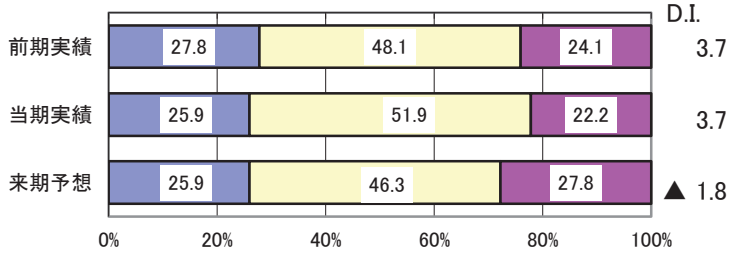
当期実績（2022年 1～ 3月期実績）
来期予想（2022年 4～ 6月期予想）



1. 業　況

当期の業況判断D.I.は3.7と、対前期比0.0ポイントの横ばいで、全業種の中で唯一プラス水準となり、最も良い水準の業種となりました。前回調査時における今期見通し（9.4）を5.7ポイントと下回りました。来期予想については、D.I.は▲1.8と、5.5ポイントの低下をし、マイナス水準に転じますが、最も良い水準の業種となる見込みです。

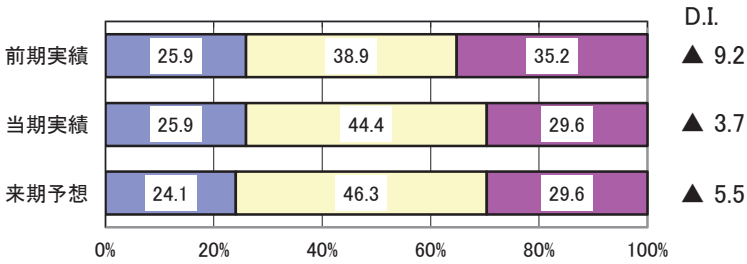
業　況



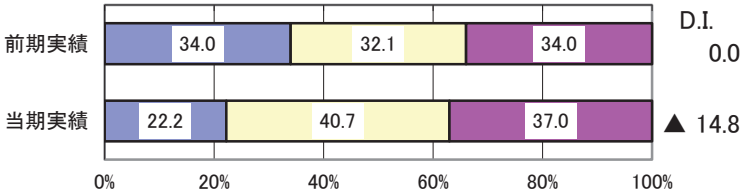
2. 売 上 額

当期の売上額判断D.I.は▲3.7と、対前期比5.5ポイントの改善となり、全業種の中で、唯一改善した業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲14.8と、10～12月期から14.8ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲5.5と、1.8ポイントの小幅低下するものの、最も良い水準の業種となる見込みです。

前期比売上額



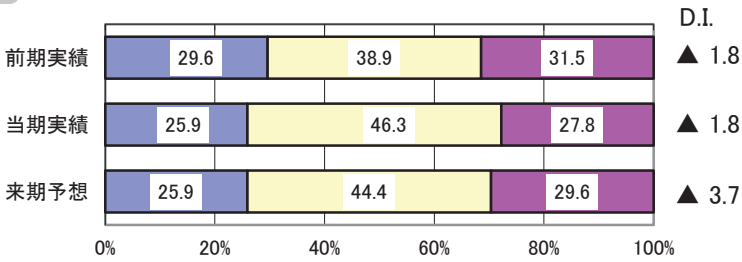
前年同期比売上額



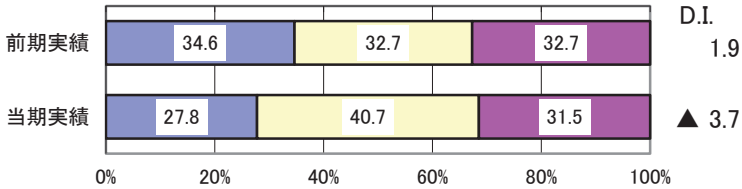
3. 収　益

当期の収益判断D.I.は▲1.8と、対前期比0.0ポイントの横ばいで、全業種の中で最も良い水準の業種となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲3.7と、10～12月期から5.6ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲3.7と、1.9ポイントの小幅低下をするものの、最も良い水準の業種となる見込みです。

前期比収益

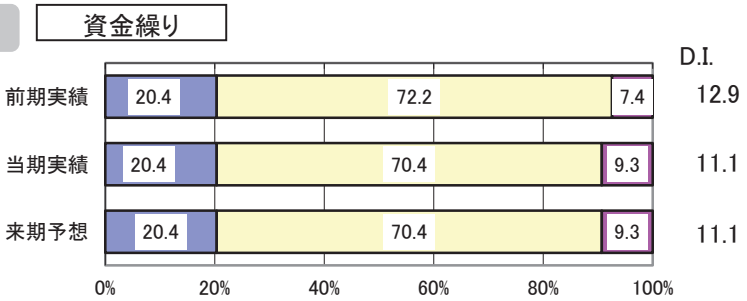


前年同期比収益



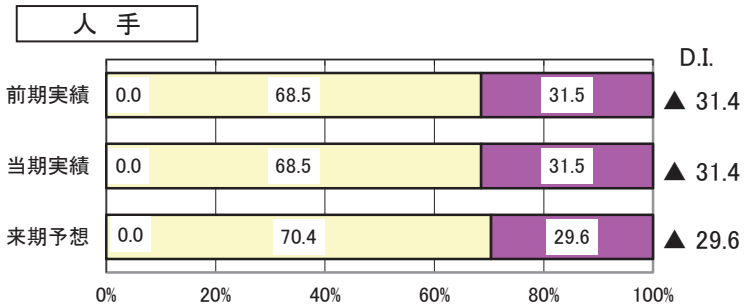
4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は11.1と、対前期比1.8ポイントの小幅改低下となりましたが、プラス水準を維持し、最も良い水準の業種となりました。来期予想については、D.I.は11.1と、横ばいとなり、今期同様最も良い水準の業種となる見込みです。



5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.（過剰－不足）は▲31.4と、対前期比0.0ポイントの横ばいとなりました。来期予想については、D.I.は▲29.6と、1.8ポイントの改善をし、人手不足感は小幅に緩和する見込みです。



調査先のコメント

○建築用資材（特に木材）が高騰している。昨年と比べると15%位値上げされている。また、納期の遅れが目立ち（プレカット）、完成が大幅に遅れている。

○商品物件の仕入困難（価格高騰）のため、業容への影響が懸念される。木材、給湯器等の資材不足の状況の改善は先が見えず不安材料である。

○更に建築費の単価が上がりそうである。一定期間は建築の見直しをしたい。

○仕入原価の大幅上昇と更なる上昇予測に伴い、販売価格転嫁の限界と販売不振が不安である。

○商品物件の仕入が難しくなってきている。

○リフォーム、建築は資材が高騰し収益を少なくしている。不動産賃貸は空き室の増加に伴い、賃料が下がっている。

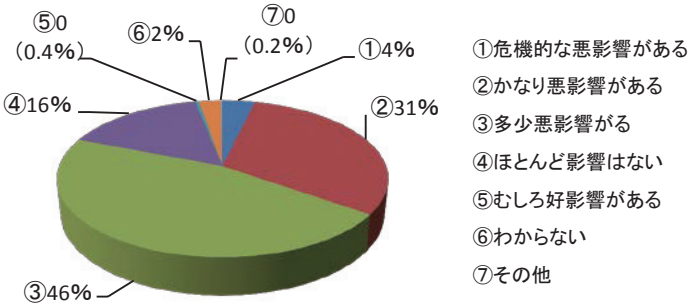
○木材の値上がりが高止まりしており、加えて建材全般が値上がり始めている。これからの工事請負は10～15%位価格に転嫁しなければ成り立っていかない状況となっている。よって、新築よりリフォーム工事（使用材料が少ないため値上げ額が小さい）への方向転換、並びに収益物件の推進をしていきたい。

○工事材料（資材）の値上がりが業績に影響している。

特別調査 ・・・・・「原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について」

1. 御社では、最近の原材料・仕入価格の上昇により収益にどのような影響を受けていますか。

原材料・仕入価格の上昇による収益への影響については、①「危機的な悪影響がある」が4%、②「かなり悪影響がある」が31%、③「多少悪影響がある」が46%で、影響を受けているという回答が全体の81%を占めた。一方、④「ほとんど影響はない」が16%、⑤「むしろ好影響がある」が0.4%、⑥「わからない」が3%、⑦その他が0.2%であった。



2.御社の原材料・仕入れ価格は、1年前と比較してどの程度変化しましたか。

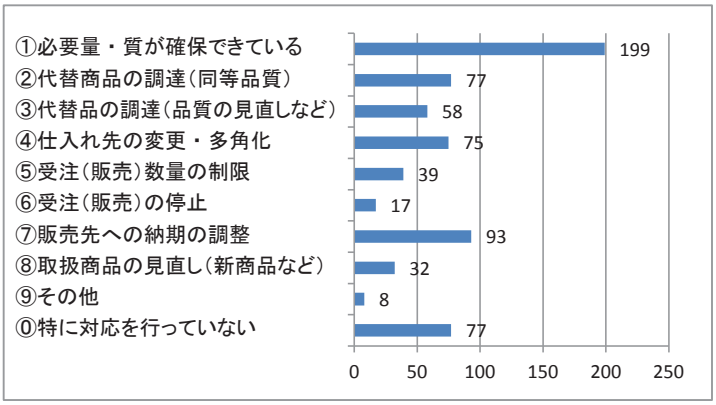
原材料・仕入価格が1年前と比較してどの程度変化したかについては、「5～10%程度の上昇」が23%で最も多く、次いで「3～5%程度の上昇」が18%、「0～3%の上昇」が14%と続いた。一方、「むしろ低下」との回答が2%、「わからない」との回答が10%であった。

3.御社では、原材料・仕入価格の上昇のうち、どの程度を販売価格に転嫁できていますか。

原材料・仕入価格の上昇のうち、どの程度販売価格に転嫁できているかについては、「ほとんど転嫁できていない」が29%と最も多く、次いで「多少転嫁できている」と「ある程度転嫁できている」がともに17%と続いた。一方、「仕入価格は上昇していないので転嫁の必要なし」が3%、「転嫁どころか販売価格は低下している」が1%であった。

4.原材料・仕入れについては、価格の上昇のほか、調達遅延、数量確保困難などといった声も聞かれています。御社では、各種資材や製商品の量や質は確保できていますか。

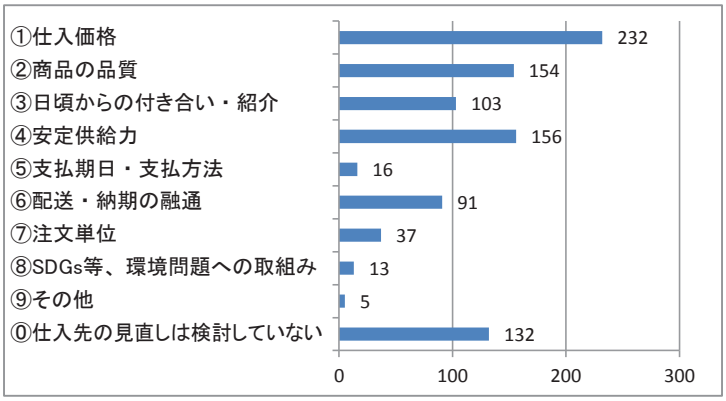
各種資材や製商品の量や質は確保できているかについては、①「必要量・質が確保できている」が199社であった。一方、確保できていないという場合の回答では、⑦「販売先への納期の調整」が93社、次いで②「代替商品の調達（同等品質）」が77社、④「仕入れ先の変更・多角化」が75社であった。「特に対応を行っていない」との回答も77社あった。　　（最大3つまで複数回答）



（注）①必要量・質が確保できている（値上げによる調達を含む）

5.仕入の困難化に伴い、仕入先を見直す動きも出ています。御社では、仕入先の見直し等を検討するにあたって、重視する点はありますか。

仕入先の見直し等を検討するにあたり重視する点では、①「仕入価格」が232社と最も多かった。次いで、④「安定供給力」が156社、②「商品の品質」が154社と続いた。また、他には③「日頃からの付き合い・紹介」が103社、⑥「配送・納期の融通」との回答が91社であった。一方、「仕入先の見直しは検討していない」との回答が132社であった。　　（最大3つまで複数回答）



お客さま景況インタビュー

インタビュー日付
2022 年 2 月 21 日

株式会社　中込製作所　　～限りない成長を目指して～

本 社 所 在 地	横浜市金沢区福浦 2 丁目 7-21
創　　業	昭和 23 年（創業 74 年）
事　業　内　容	オフィス家具製造販売業

今回は「チャレンジ」を合言葉に、より良い製品づくりのために一歩先を行く会社を目指している、株式会社中込製作所の経営者のお話を聞かせて頂きました。

Ⅰ.「技術のナカゴメ」になるまで

私が6代目の社長に就任した18年前､会社は｢納期遅れのナカゴメ｣｢品質クレームのナカゴメ｣と呼ばれるほど多くの問題を抱えていました。経理畑で製造にほとんどノータッチだった私は、まずは現状を知らなければならないと、ひたすら工場を歩き廻りました。そして問題点を見つけては、その解決のために従業員と何度も会合を重ねました。その結果、品質クレームは激減し、受注や利益も増加しました。現在は、品質はもちろん、短納期少ロットに対応する態勢を作り､｢店舗什器のナカゴメ｣としてご愛顧をいただいております。

Ⅱ. 景況について

新型コロナウイルス感染症が流行し始めたときは、一時的に受注の減少等の影響を受けていましたが、今は大きな影響は受けていません。

社長に就任し、ようやく軌道に乗ってきた矢先にも世界的金融危機「リーマンショック」の影響を受けました。受注の著しい減少の中、生産性の向上を図るために機械化による作業の効率化を図りました。大型機械の導入には大きな資金を必要とすることから社内でも反対する声はありましたが、結果として効率化のみならず品質の向上に繋がり、このような環境の変化への競争力が強化されたと考えています。

Ⅲ. 今後の事業展開について

これから益々厳しい時代が来ると思います。それでも会社は成長させていかなければいけません。

1.「技術のナカゴメ」を継承

キャッシュレス化が進みレジ台なども昔より複雑なオーダーが多くなりましたが、難しいオーダーこそ「ナカゴメ」だからやってくれるという、お客様の期待と信頼に応えられるよう努力し､｢技術のナカゴメ｣を将来に継承します。

2. 一歩先を行く会社を目指す

今後は常に変化をさせて、一歩先を行く会社を目指していきます。現在、ＤＸを駆使した営業強化に取り組んでいます。ＤＸを導入することによる、“お客様の見える化”は顧客情報、案件の進捗状況等、営業活動における重要なデータを一目で把握できるようになります。また、従業員の目標管理や目標への進捗状況といった動きを把握することもできるようになります。

「誠意、創意、熱意」をモットーに､｢モノづくり｣を通じて、真に社会に貢献できる企業を目指しています。

代表取締役社長　日向亮司

販路拡大・M＆Aの
お手伝いをします！

～当金庫のお客様同士のビジネスマッチング・M＆Aを支援いたします～

例えばこんな時に・・・
- ○仕入先を探したい！
- ○卸先を探したい！
- ○内装工事業者を探したい！
- ○連携先を探したい！
- ○外注先を探したい！
- ○後継者のいない事業者の事業を引き継ぎたい！

これから
創業する方、事業を拡大する方、販路を拡大したい方、
お気軽にお声かけください！

（対象となる方）
当金庫とお取引のある事業者さま

（お申し込み方法）
当金庫の取引店舗まで、お申し出ください。

（注意事項）
※マッチング内容は企業間取引に限ります。
※お取扱いできない場合もございます。
※必ずしも希望するマッチング先をご紹介できるものではありません。

（お問い合わせ）
お取引のある店舗、もしくは下記までお問い合わせください。
かながわ信用金庫 顧客サポート部
〒238－0004　神奈川県横須賀市小川町7番地
電話番号　046－821－1733（平日9時～17時）

本レポートは、情報提供のみを目的とした標記時点における当金庫の考え方を示したものです。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなされますようお願いします。また、この資料は、当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

発　行　かながわ信用金庫
住　所　〒238-0004　横須賀市小川町7番地
TEL　046－826－1515（平日9:00～17:00）
編　集　株式会社　かなしんトータルサービス
住　所　〒235-0023　横浜市磯子区森1丁目10番10号
TEL　045－263－6363（平日9:00～17:00）

かながわ信用金庫 かなしん